

Oracle® Database

Companion CD クイック・インストール・ガイド

10g リリース 2 (10.2) for Microsoft Windows (32-bit)

部品番号 : B25258-01

原典情報 : B14322-01 Oracle Database Companion CD Quick Installation Guide 10g Release 2 (10.2) for Windows (32-Bit)

2005 年 10 月

このマニュアルでは、Oracle Database Companion CD 製品を 32 ビット Windows システムにすばやくインストールする方法を説明します。次の内容について説明します。

1. このマニュアルの概要
2. 管理者権限でのシステムへのログイン
3. Oracle HTML DB 製品の要件
4. Oracle Database 10g Products の要件
5. Oracle Database 10g Companion Products をインストールするための要件
6. Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server のインストール
7. Oracle Database 10g Products のインストール
8. Oracle Database 10g Companion Products のインストール
9. インストール後の作業
10. ドキュメントのアクセシビリティについて
11. サポートおよびサービス

1 このマニュアルの概要

このマニュアルでは、Oracle Database Companion CD がインストールされていないシステムに Oracle Database Companion CD のインストール・タイプをデフォルトの設定でインストールする方法を説明します。ご使用のシステムにすでにインストールしてある場合は、『Oracle Database Companion CD インストール・ガイド』でインストール手順の詳細を確認してください。

Oracle Database Companion CD のインストール・タイプは次のとおりです。

- **Oracle HTML DB Products:** Oracle HTML DB のみと、Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server の組合せが含まれます。
- **Oracle Database 10g Products:** Oracle JDBC Development Drivers、Oracle SQLJ、Oracle Database Examples、Oracle Text Knowledge Base、JAccelerator (NCOMP)、Intermedia Image Accelerator、Oracle Ultra Search および Oracle Workflow Server が含まれます。
- **Oracle Database 10g Companion Products:** Oracle Workflow 中間層コンポーネントおよび Oracle HTTP Server が含まれます。

注意： これらの製品をインストールする前に、ご使用のシステムまたはご使用のシステムがアクセスできるシステムに Oracle Database 10g がインストールされていることを確認してください。詳細は、『Oracle Database Companion CD インストール・ガイド』を参照してください。

このマニュアルで説明しないタスク

このマニュアルでは、次のタスクの実行方法は説明しません。

- Oracle HTTP Server を含む既存の Oracle ホームへの Oracle Database 10g Companion Products のインストール
- 移行の課題
- Oracle ソフトウェアの削除
- インストール後のタスク

追加インストール情報の入手先

Oracle Database 10g Companion CD 製品のインストールの詳細は、このマニュアルで説明されていないタスクに関する情報を含め、『Oracle Database Companion CD インストール・ガイド』を参照してください。

このマニュアルは Oracle Database インストール・メディアに含まれています。これにアクセスするには、Web ブラウザを使用して DVD-ROM の companion ディレクトリにある welcome.htm ファイルを開き、「ドキュメント」タブを選択します。

2 管理者権限でのシステムへのログイン

Administrators グループのメンバーとして、Oracle コンポーネントをインストールするコンピュータにログオンします。プライマリ・ドメイン・コントローラ (PDC) またはバックアップ・ドメイン・コントローラ (BDC) にインストールする場合は、Domain Administrator グループのメンバーとしてログインします。

3 Oracle HTML DB 製品の要件

表 1 に、Oracle HTML DB インストールの要件を要約します。各要件の詳細は、この項の後述のトピックを参照してください。

表 1 Oracle HTML DB の要件

| インストール・オプション | 必要なディスク領域 | 必要なブラウザ | 必要な製品 |
|--|--|--|---|
| Oracle HTML DB のみ (Oracle HTTP Server のホーム内) | 合計ディスク領域: 682.13MB 詳細: 3 ページ 「ディスク領域の要件」 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Netscape Communicator 7.0 ■ Microsoft Internet Explorer 6.0 ■ Mozilla 1.2 ■ Firefox 1.0.4 詳細: 4 ページ 「ブラウザの要件」 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Database ■ Oracle HTTP Server ■ Oracle XML DB ■ Oracle Text 詳細: <ul style="list-style-type: none"> ■ 4 ページ 「Oracle Database の要件」 ■ 4 ページ 「Oracle HTTP Server の要件」 ■ 5 ページ 「Oracle XML DB の要件」 ■ 5 ページ 「Oracle Text の要件」 |
| Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server | 合計ディスク領域: 1.03GB 詳細: 3 ページ 「ディスク領域の要件」 | Oracle HTML DB のみのインストールと同じ | <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Database ■ Oracle XML DB ■ Oracle Text 詳細: <ul style="list-style-type: none"> ■ 4 ページ 「Oracle Database の要件」 ■ 5 ページ 「Oracle XML DB の要件」 ■ 5 ページ 「Oracle Text の要件」 |

3.1 ディスク領域の要件

次のディスク領域は、Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server のみにあてはまります。既存の Oracle Database インストール内のサイズは含まれません。

Oracle HTML DB のみのディスク領域要件

- 一時領域: 110MB
- SYSTEM_DRIVE:¥Program Files¥Oracle ディレクトリ: 0.13MB
- SYSTEM_DRIVE:¥ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME ディレクトリ: 342MB
- SYSTEM_DRIVE:¥ORACLE_BASE¥oradata ディレクトリ: 230MB (データファイル)
- 合計: 682.13MB

Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server のディスク領域要件

- 一時領域 : 110MB
- SYSTEM_DRIVE:¥Program Files¥Oracle ディレクトリ : 1.12MB
- SYSTEM_DRIVE:¥ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME ディレクトリ : 715MB
- SYSTEM_DRIVE:¥ORACLE_BASE¥oradata ディレクトリ : 230MB (データファイル)
- 合計 : 1.03GB

3.2 ブラウザの要件

Oracle HTML DB アプリケーションを表示または開発するには、Web ブラウザが JavaScript、HTML 4.0 および CSS 1.0 標準をサポートしている必要があります。この要件を満たすのは次のブラウザです。

- Netscape Communicator 7.0 以上
- Microsoft Internet Explorer 6.0 以上 (Windows のみ)
- Mozilla 1.2 以上
- Firefox 1.0.4

3.3 Oracle Database の要件

Oracle HTML DB には、リリース 9.2.0.3 以上の Oracle Database が必要です。Oracle HTML DB は、Oracle HTTP Server を含む Oracle ホームにインストールする必要があります。この Oracle ホームは、Oracle HTML DB が Oracle*Net を使用してこのデータベースにアクセスできるかぎり、Oracle Database のホームとは異なる物理サーバー上に置くことができます。

たとえば、Oracle Database が OraDB10g_home1 にインストールされている場合に、Oracle HTML DB をインストールするために Oracle Universal Installer を実行し、Oracle Database の場所の指定を求められたら、そのホームの Oracle Database を指定できますが、Oracle HTML DB は Oracle HTTP Server を含むそれ自体のホーム (たとえば、OraDB10g_home2) にインストールする必要があります。

3.4 Oracle HTTP Server の要件

Oracle HTML DB には、実行するために Oracle HTTP Server および mod_plsql へのアクセスが必要です。選択する Oracle HTML DB インストール・オプションにより、この要件を満たす Oracle HTTP Server の使用可能バージョンが決まります。

- **Oracle HTML DB のみ** : 「Oracle HTML DB のみ」インストール・タイプを選択する場合は、既存の Oracle HTTP Server ホームにインストールする必要があります。次の製品には、この要件を満たす Oracle HTTP Server および mod_plsql のバージョンが含まれています。
 - Oracle 9i Database リリース 2 (9.2) 以上
 - Oracle 9i Application Server リリース 1 (1.0.2.2) 以上

Oracle HTTP Server には、オペレーティング・システムおよび Service Pack に関する次の最低要件があります。

- Windows 2000 (Service Pack 3 以上)

Windows 2000 には、Windows 2000 Professional、Windows 2000 Server、Windows 2000 Advanced Server、Windows 2000 Datacenter Server および Terminal Services が含まれます。

- Windows 2003
- Windows XP Professional

注意： Windows Multilingual User Interface Pack は、Windows 2003 および Windows XP でサポートされています。

システムがこれらの要件を満たしていない場合は、「Oracle HTML DB のみ」インストール・オプションではなく「Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server」オプションを選択します。

- **Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server:** Oracle Database 10g Companion Products リリースに含まれているバージョンの Oracle HTTP Server をインストールする場合は、要件の詳細を 10 ページの「[Companion Products に含まれている Oracle HTTP Server の使用](#)」で確認してください。

3.5 Oracle XML DB の要件

Oracle XML DB は、Oracle HTML DB 用に使用する Oracle データベースに最初にインストールする必要があります。インストール中に作成されたかデータベース・コンフィギュレーション・アシスタント (DBCA) により作成された事前構成済データベースを使用している場合、Oracle XML DB はすでにインストールされ構成されています。

関連項目： Oracle XML DB を既存データベースに手動で追加する方法の詳細は、『Oracle XML DB 開発者ガイド』を参照してください。

3.6 Oracle Text の要件

検索可能なオンライン・ヘルプを Oracle HTML DB で使用できるようにするには、Oracle Text がインストールされている必要があります。Oracle Text は、デフォルトで Oracle Database の一部としてインストールされます。

さらに、Oracle Text のデフォルトの言語プリファレンスがインストールされていることを確認します。Oracle Text のデフォルト言語をインストールするには、Oracle HTML DB をインストールする Oracle Database にログインし、該当する `drdeflang.sql` スクリプトを実行します。このスクリプトは、デフォルトでは `ORACLE_BASE\ORACLE_HOME\ctx\admin\defaults` にあります。たとえば、アメリカ英語の言語プリファレンス・スクリプト (`drdefus.sql`) を実行するには、次のように指定します。

```
c:\> sqlplus sys/SYS_password as sysdba
SQL> @c:\oracle\product\10.2.0\db_1\ctx\admin\defaults\drdefus.sql
```

関連項目： Oracle Text の詳細は、『Oracle Text アプリケーション開発者ガイド』を参照してください。

4 Oracle Database 10g Products の要件

表 2 に、Oracle Database 10g Products のインストールの要件を要約します。各要件の詳細は、この項の後述のトピックを参照してください。

表 2 Oracle Database 10g Products の要件

| 必要なディスク領域 | 必要なブラウザ | 必要な製品 |
|---|---|---|
| 合計 : 960.2MB 詳細 : 6 ページ 「ディスク領域の要件」 | Oracle Workflow Server には次のブラウザが必要です。 <ul style="list-style-type: none">■ Netscape Communicator 7.2■ Mozilla 1.7■ Microsoft Internet Explorer 6.0■ Firefox 1.0.4■ Safari 1.2 詳細 : 7 ページ 「Oracle Workflow Server のブラウザの要件」 | <ul style="list-style-type: none">■ Oracle Database■ Oracle Workflow Server には、Oracle Database に加えて、unzip ユーティリティ、JDK 1.4、送信用 SMTP メール・サーバー（オプション）および受信 IMAP メール・サーバー（オプション）が必要です。 詳細 : <ul style="list-style-type: none">■ 7 ページ 「Oracle Database の要件」■ 7 ページ 「Oracle Workflow Server の製品要件」 |

4.1 ディスク領域の要件

次のディスク領域サイズは、Oracle Database 10g Companion Products に必要なサイズのみを反映しています。既存の Oracle Database インストール内のサイズは含まれません。

Oracle Workflow 中間層コンポーネントのみのディスク領域要件

- 一時領域 : 90MB
- `SYSTEM_DRIVE:\Program Files\Oracle` ディレクトリ : 0.15MB
- `SYSTEM_DRIVE:\ORACLE_BASE\ORACLE_HOME` ディレクトリ : 21MB
- 合計 : 111.15MB

Oracle Workflow 中間層コンポーネントおよび Oracle HTTP Server のディスク領域要件

- 一時領域 : 90MB
- `SYSTEM_DRIVE:\Program Files\Oracle` ディレクトリ : 1.11MB
- `SYSTEM_DRIVE:\ORACLE_BASE\ORACLE_HOME` ディレクトリ : 390MB
- 合計 : 481.11MB

Oracle HTTP Server のみのディスク領域要件

- 一時領域 : 90MB
- `SYSTEM_DRIVE:\Program Files\Oracle` ディレクトリ : 1.1MB
- `SYSTEM_DRIVE:\ORACLE_BASE\ORACLE_HOME` ディレクトリ : 372MB
- 合計 : 463.1MB

4.2 Oracle Database の要件

「Oracle Database 10g Products」インストール・タイプをインストールする前に、ご使用のシステムが Oracle Database リリース 2 (10.2) にアクセスできる必要があります。

関連項目：『Oracle Database インストレーション・ガイド』

4.3 Oracle Workflow Server のブラウザの要件

Oracle Workflow Server には、フレーム、JavaScript、Java Development Kit (JDK) バージョン 1.4 および AWT をサポートする Web ブラウザが必要です。この要件を満たすのは次の Web ブラウザです。

- Netscape Communicator 7.2 以上
- Mozilla 1.7 以上
- Microsoft Internet Explorer 6.0 以上
- Firefox 1.0.4 以上
- Safari 1.2 以上

4.4 Oracle Workflow Server の製品要件

Oracle Workflow Server を実行するには、Oracle Database に加えて次の製品が必要です。

- unzip ユーティリティ (たとえば NicoMak 社の WINZIP)。Workflow HTML ヘルプを wfdoc.zip ファイルから抽出するために必要です。
- Java Development Kit (JDK) バージョン 1.4。Oracle Workflow Java Function Activity Agent および Workflow XML Loader を実行するために必要です。
- 送信用 SMTP メール・サーバーおよび受信用 IMAP メール・サーバー (Oracle Workflow 通知メーカーによる電子メール通知の送受信が必要な場合)。

5 Oracle Database 10g Companion Products をインストールするための要件

表 3 に、Oracle Database 10g Companion Products の各インストール・オプションの要件を要約します。各要件の詳細は、この項の後述のトピックを参照してください。

表 3 Oracle Database 10g Companion Products の要件

| インストール・オプション | 必要なディスク領域 | 必要なブラウザ | 必要な製品 |
|---|--|---|--|
| Oracle Workflow 中間層コンポーネント (Oracle HTTP Server のホーム内) | 合計 : 111.15MB 詳細 : 9 ページ 「ディスク領域の要件」 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Netscape Communicator 7.2 ■ Mozilla 1.7 ■ Microsoft Internet Explorer 6.0 ■ Firefox 1.0.4 ■ Safari 1.2 詳細 : 9 ページ 「ブラウザの要件」 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Database ■ Oracle Workflow Server ■ Oracle HTTP Server 詳細 : <ul style="list-style-type: none"> ■ 11 ページ 「Oracle Database の要件」 ■ 9 ページ 「Oracle Workflow Server の要件」 ■ 10 ページ 「Oracle HTTP Server の要件」 |
| Oracle Workflow 中間層コンポーネントおよび Oracle HTTP Server | 合計 : 481.11MB 詳細 : 9 ページ 「ディスク領域の要件」 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Netscape Communicator 7.2 ■ Mozilla 1.7 ■ Microsoft Internet Explorer 6.0 ■ Firefox 1.0.4 ■ Safari 1.2 詳細 : 9 ページ 「ブラウザの要件」 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle Database ■ Oracle Workflow Server 詳細 : <ul style="list-style-type: none"> ■ 11 ページ 「Oracle Database の要件」 ■ 9 ページ 「Oracle Workflow Server の要件」 |
| Oracle HTTP Server のみ | 合計 : 463.1MB 詳細 : 9 ページ 「ディスク領域の要件」 | <ul style="list-style-type: none"> ■ Netscape Communicator 7.2 ■ Mozilla 1.7 ■ Microsoft Internet Explorer 6.0 ■ Firefox 1.0.4 ■ Safari 1.2 詳細 : 9 ページ 「ブラウザの要件」 | Oracle Database 詳細 : 11 ページ 「Oracle Database の要件」 |

5.1 ディスク領域の要件

次のディスク領域サイズは、Oracle Database 10g Companion Products のみに必要なサイズを反映しています。既存の Oracle Database インストール内のサイズは含まれません。

Oracle Workflow 中間層コンポーネントのみのディスク領域要件

- 一時領域 : 90MB
- SYSTEM_DRIVE:¥Program Files¥Oracle ディレクトリ : 0.15MB
- SYSTEM_DRIVE:¥ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME ディレクトリ : 21MB
- 合計 : 111.15MB

Oracle Workflow 中間層コンポーネントおよび Oracle HTTP Server のディスク領域要件

- 一時領域 : 90MB
- SYSTEM_DRIVE:¥Program Files¥Oracle ディレクトリ : 1.11MB
- SYSTEM_DRIVE:¥ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME ディレクトリ : 390MB
- 合計 : 481.11MB

Oracle HTTP Server のみのディスク領域要件

- 一時領域 : 90MB
- SYSTEM_DRIVE:¥Program Files¥Oracle ディレクトリ : 1.1MB
- SYSTEM_DRIVE:¥ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME ディレクトリ : 372MB
- 合計 : 463.1MB

5.2 ブラウザの要件

Oracle Database 10g Companion Products には、フレーム、JavaScript、Java Development Kit (JDK) バージョン 1.4 および AWT をサポートする Web ブラウザが必要です。この要件を満たすのは次の Web ブラウザです。

- Netscape Communicator 7.2 以上
- Mozilla 1.7 以上
- Microsoft Internet Explorer 6.0 以上
- Firefox 1.0.4 以上
- Safari 1.2 以上

5.3 Oracle Workflow Server の要件

Oracle Workflow Server がインストールされていない場合は、このマニュアルに記述されている指示に従って Oracle Database 10g 製品をインストールしてください。Oracle Workflow Server は、インストールした後、Oracle Workflow Configuration Assistant を使用して構成する必要があります。

Oracle Workflow Server は、Oracle Database 10g の Oracle ホームにインストールしてする必要があります。Oracle ホームの内容をチェックするには、Oracle Universal Installer を使用できます。

関連項目： Oracle ホームの内容の調べ方は、『Oracle Database Companion CD インストール・ガイド』にある、Oracle ホーム・ディレクトリの場所の識別に関する項を参照してください。

5.4 Oracle HTTP Server の要件

Oracle Workflow 中間層コンポーネントは、実行するために Oracle HTTP Server へのアクセスが必要です。Oracle Database 10g Companion Products に含まれているバージョンの Oracle HTTP Server をインストールできます。または、すでにインストールされている Oracle HTTP Server を使用できます。

- [Companion Products](#) に含まれている Oracle HTTP Server の使用
- [既存の Oracle HTTP Server](#) インストールの使用

5.4.1 Companion Products に含まれている Oracle HTTP Server の使用

Oracle Database 10g Companion Products に含まれているバージョンの Oracle HTTP Server を使用する場合は、このバージョンの Oracle HTTP Server を Companion Products とともにそれ自体の Oracle HTTP Server ホームにインストールできます。このオプションを選択する場合は、次の要件が満たされていることを確認してください。

- [要件の概要](#)
- [ディスク領域の要件](#)
- [オペレーティング・システムおよび Service Pack の要件](#)
- [Oracle Database の要件](#)

要件の概要

表 4 に、Oracle HTTP Server のインストールの要件を要約します。各要件の詳細は、この項の後述のトピックを参照してください。

表 4 Oracle HTTP Server の要件

| 必要なディスク領域 | 必要なオペレーティング・システム および Service Pack | 必要な製品 |
|--|---|---|
| 合計 : 463.1MB 詳細 : 10 ページ「 ディスク領域の要件 」 | <ul style="list-style-type: none">■ Windows 2000 (Service Pack 3 以上)■ Windows 2003■ Windows XP 詳細 : 11 ページ「 オペレーティング・システムおよび Service Pack の要件 」 | Oracle Database 詳細 : 11 ページ「 Oracle Database の要件 」 |

ディスク領域の要件

Oracle HTTP Server のディスク領域要件は次のとおりです。

- 一時領域 : 90MB
- `SYSTEM_DRIVE:\Program Files\Oracle` ディレクトリ : 1.1MB
- `SYSTEM_DRIVE:\ORACLE_BASE\ORACLE_HOME` ディレクトリ : 372MB
- 合計 : 463.1MB

オペレーティング・システムおよび Service Pack の要件

Oracle HTTP Server には、オペレーティング・システムおよび Service Pack に関する次の最低要件があります。

- Windows 2000 (Service Pack 3 以上)
Windows 2000 には、Windows 2000 Professional、Windows 2000 Server、Windows 2000 Advanced Server、Windows 2000 Datacenter Server および Terminal Services が含まれます。
- Windows 2003
- Windows XP Professional

注意： Windows Multilingual User Interface Pack は、Windows 2003 および Windows XP でサポートされています。

Oracle Database の要件

Oracle HTTP Server には、実行のために、Oracle9i リリース 2 (9.2.0.3) 以上へのアクセスが必要です。Oracle Database は、Oracle*Net によってアクセス可能であれば Oracle HTTP Server とは別のシステム上にあってもかまいません。ただし、Oracle HTTP Server はそれ自身のホームにあることが必要です。

たとえば、Oracle Database が OraDB10g_home1 にインストールされている場合に、Oracle HTTP Server をインストールするために Oracle Universal Installer を実行するとき、そのホームの Oracle Database を指定できますが、Oracle HTTP Server は Oracle Database 10g Companion Products とともにそれ自身のホーム (たとえば、OraDB10g_home2) にインストールする必要があります。

5.4.2 既存の Oracle HTTP Server インストールの使用

Oracle Database 10g Companion Products を既存の Oracle HTTP Server ホームにインストールする場合は、そのバージョンの Oracle HTTP Server に mod_plsql が含まれていることを確認してください。次の製品の Oracle ホーム・ディレクトリがこの要件を満たしています。

- Oracle HTTP Server 10g
- Oracle Identity Management 10g (Oracle Application Server 10g の一部)

6 Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server のインストール

この項の内容は、次のとおりです。

- [Oracle HTML DB のインストール前の推奨タスク](#)
- [Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server のインストール手順](#)

6.1 Oracle HTML DB のインストール前の推奨タスク

Oracle HTML DB をインストールする前に、インストールに使用する Oracle データベースをバックアップします。バックアップの実行には、Oracle Database インストールに含まれている Oracle Database Recovery Manager を使用できます。

関連項目：『Oracle Database バックアップおよびリカバリ基礎』

6.2 Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server のインストール手順

この項では、次のいずれかのシナリオを使用した Oracle HTML DB のインストール方法を説明します。

- **Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server を両方とも新規インストール：**Oracle Universal Installer により、Oracle HTML DB をインストールする Oracle HTTP Server ホームが作成されます。
- **既存の Oracle HTTP Server ホームに Oracle HTML DB をインストール：**既存の Oracle HTTP Server ホームに新しい Oracle HTML DB をインストールするか、既存の Oracle HTTP Server ホームの既存の HTML DB をアップグレードできます。

Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server をインストールするには、次の手順を実行します。

1. **Administrators** グループのメンバーとして、Oracle コンポーネントをインストールするコンピュータにログオンします。

プライマリ・ドメイン・コントローラ (PDC) またはバックアップ・ドメイン・コントローラ (BDC) にインストールする場合は、Domain Administrator グループのメンバーとしてログインします。

2. Oracle HTML DB に使用する Oracle データベースがアクセス可能で実行中であることを確認します。

Oracle データベース・サービスが実行中であることを確認するには、Windows の「コントロールパネル」または「管理ツール」メニュー（「スタート」→「プログラム」の下）にある「サービス」ユーティリティを使用できます。「サービス」一覧に、OracleService が前に付いた Oracle データベース名が表示されます。該当するデータベース・サービスの名前を右クリックし、ドロップダウン・メニューから「開始」を選択します。

3. 「コントロールパネル」の「システム」に ORACLE_HOME 環境変数が存在する場合は、削除します。

環境変数の削除方法の詳細は、Microsoft のオンライン・ヘルプを参照してください。

注意： ORACLE_HOME 環境変数は、自動的にレジストリに設定されます。この変数を手動で設定すると、インストールができなくなります。

4. Oracle Database インストール・メディアを挿入し、companion ディレクトリにナビゲートします。あるいは、インストール・ファイルをダウンロードまたはコピーしたディレクトリにナビゲートします。

Oracle Database のインストールには、サポートされているすべての Windows プラットフォーム上で同一のインストール・メディアを使用します。

5. setup.exe をダブルクリックし、Oracle Universal Installer を開始します。
6. 「ようこそ」ウィンドウで「次へ」をクリックします。
7. 「インストールする製品の選択」ウィンドウで「Oracle HTML DB」を選択して、「次へ」をクリックします。
8. 「インストール・タイプの選択」ウィンドウで次のいずれかを選択して、「次へ」をクリックします。
 - 「Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server」: このオプションは、新しい Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server を新しい Oracle ホームにインストールするときに選択します。
 - 「Oracle HTML DB のみ」: このオプションは、新しい Oracle HTML DB を既存の Oracle HTTP Server ホームにインストールするか、既存の Oracle HTML DB インストールをアップグレードするときに選択します。
9. 「ホームの詳細の指定」ウィンドウで次を入力します。
 - 「名前」: 前の手順で「Oracle HTML DB と Oracle HTTP Server」を選択した場合、新しい Oracle ホームを入力します。「Oracle HTML DB のみ」を選択した場合は、Oracle HTML DB が使用する既存の Oracle HTTP Server ホームの名前を選択します。
 - 「パス」: 「名前」で指定した Oracle ホームのディレクトリ位置を入力します。

関連項目: Oracle ホームの検索方法は、15 ページの「Oracle ホーム・ディレクトリの場所の特定」を参照してください。各ホームを選択し、Apache Standalone を検索します。Oracle HTTP Server は、「ホームの詳細の指定」ウィンドウで Apache Standalone としてリストされます。

10. 「次へ」をクリックします。
11. 「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウで、Oracle HTML DB の一部としてインストールする追加コンポーネントを選択し、「次へ」をクリックします。
12. 「製品固有の前提条件のチェック」ウィンドウで、Oracle Universal Installer がシステムをチェックしたときに発生した可能性があるエラーの有無を調べて修正します。
13. 「次へ」をクリックします。
14. 「HTML DB データベースの詳細の指定」ウィンドウで、Oracle HTML DB の構成に必要な情報を入力します。
 - 「ホスト名」

データベースがインストールされているシステムのホスト名を指定します。ホスト名がローカル・ホストの場合、コンピュータの名前（たとえば、myserver.us.mycompany.com）を入力します。localhost ではありません。
 - 「ポート」

データベース・システム上の Oracle Net Listener の TCP/IP ポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 1521 です。ご使用の Oracle Database インストールの現在のポート番号を検出するには、その tnsnames.ora ファイルを調べます。このファイルはデフォルトでは ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥network¥admin にあります。

- 「データベース・サービス名」

Oracle HTML DB データベース・オブジェクトをインストールするデータベースのデータベース・サービス名、たとえば `sales` を指定します。(データベース・サービス名は `tnsnames.ora` ファイルにあります。)かわりにドメイン名を指定することもできます。ドメイン名は、通常、グローバル・データベース名、たとえば `sales.us.mycompany.com` と同じです。

Oracle HTML DB を構成するには、Oracle HTML DB データベース・オブジェクトを Oracle Database にインストールする必要があります。選択するデータベースはリリース 9.2.0.3 以上のデータベースである必要があります。10g リリースの Oracle HTTP Server を使用する予定の場合、インストール時に入力する情報を基に Oracle Universal Installer が自動的にデータベース・アクセス記述子 (DAD) を `mod_plsql` 構成ファイル内に作成し、ディレクトリの別名を Oracle HTTP Server の構成ファイル (`httpd.conf`) 内に作成します。ただし、Oracle HTTP Server の 9i リリース 2 (9.2) を使用する予定の場合、『Oracle Database Companion CD インストール・ガイド』のインストール後の手順に説明されている手順を使用して、これらの設定を手動で作成する必要があります。

- 表領域名

Oracle HTML DB データベース・オブジェクトをロードする表領域の名前を入力するか、デフォルト (`SYS_AUX`) を受け入れます。

- 「SYS パスワード」

データベースの `SYS` ユーザーのパスワードを指定します。

- HTML DB パスワード

Oracle HTML DB スキーマ (ユーザー) 用に使用するパスワードを指定します。これらのスキーマは、インストール中にデータベースに作成されます。

インストール後、このパスワードを使用して管理ユーザーとして Oracle HTML DB に接続できます。指定したパスワードは、`mod_plsql` がデータベースへの接続に使用する `HTMLDB_PUBLIC_USER` スキーマ、および `FLows_010600` と `FLows_FILES` のスキーマにも使用されます。

- HTML DB パスワードの確認

パスワードを正しく指定したことを確認するために、再度入力します。

15. 「次へ」をクリックします。

16. 「サマリー」ウィンドウで、インストールされる製品のリストをチェックして、「インストール」をクリックします。

17. インストールが完了したら、「終了」をクリックしてから「はい」をクリックして Oracle Universal Installer を終了します。

18. オプションとして、インストール処理中に作成された一時ファイルを削除する場合は、`OraInstalldate_time` ディレクトリを削除します。`OraInstalldate_time` ディレクトリには、約 45MB 分のファイルが保持されています。このディレクトリは、TEMP 環境変数設定により設定された場所に作成されます。

コンピュータを再起動する場合も、`OraInstalldate_time` ディレクトリは削除されません。

7 Oracle Database 10g Products のインストール

この項の内容は、次のとおりです。

- [Oracle ホーム・ディレクトリの場所の特定](#)
- [Oracle Database 10g Products のインストール手順](#)
- [Oracle Workflow 中間層のインストールのための Oracle Workflow Server の準備](#)

7.1 Oracle ホーム・ディレクトリの場所の特定

Oracle Database 10g Products を既存の Oracle ホームにインストールする前に、この Oracle ホームの場所を特定する必要があります。Oracle ホーム・ディレクトリのパスがわからない場合は、Oracle Universal Installer を使用して確認できます。

Oracle ホーム・ディレクトリのパスを調べるには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」メニューから「プログラム」を選択し、「Oracle - HOME_NAME」→「Oracle Installation Products」→「Universal Installer」を選択します。
2. 「ようこそ」ウィンドウが表示されたら、「インストールされた製品」をクリックします。
「インベントリ」ウィンドウが表示され、システム上のすべての Oracle ホームと各 Oracle ホームにインストールされている製品がリストされます。
3. 「インベントリ」ウィンドウで、各 Oracle ホームを開き、**Oracle Database 10g 10.2.0.1.0**を見つけます。
4. 「閉じる」をクリックしてから「取消」をクリックして Oracle Universal Installer を終了します。
5. 次に説明されている Oracle Database 10g Products のインストールを開始するときは、Oracle ホームの名前を確認しておく必要があります。

7.2 Oracle Database 10g Products のインストール手順

簡単に説明すると、まず Oracle Universal Installer を実行して Oracle Database 10g Products をインストールします。その後、Oracle Workflow Server を構成してから、Oracle Workflow 中間層コンポーネントをインストールします。

Oracle Database 10g Products をインストールするには、次の手順を実行します。

1. Administrators グループのメンバーとして、Oracle コンポーネントをインストールするコンピュータにログオンします。
プライマリ・ドメイン・コントローラ (PDC) またはバックアップ・ドメイン・コントローラ (BDC) にインストールする場合は、Domain Administrator グループのメンバーとしてログインします。
2. Oracle Workflow 用に使用する予定の Oracle データベースがアクセス可能で実行中であることを確認します。
Oracle Database が実行中であることを確認するには、Windows の「コントロールパネル」または「管理ツール」メニュー（「スタート」→「プログラム」の下）にある「サービス」ユーティリティを使用できます。Oracle Database の名前の前には OracleService が付いています。該当するサービスの名前を右クリックし、メニューから「開始」を選択します。

3. 「コントロールパネル」の「システム」に ORACLE_HOME 環境変数が存在する場合は、削除します。

環境変数の削除方法の詳細は、Microsoft のオンライン・ヘルプを参照してください。

注意： ORACLE_HOME 環境変数は、自動的にレジストリに設定されます。この変数を手動で設定すると、インストールができなくなります。

4. Oracle Database インストール・メディアを挿入し、companion ディレクトリにナビゲートします。または、インストール・ファイルをダウンロードまたはコピーしたディレクトリにナビゲートします。

Oracle Database のインストールには、サポートされているすべての Windows プラットフォーム上で同一のインストール・メディアを使用します。

5. setup.exe をダブルクリックし、Oracle Universal Installer を開始します。
6. 「ようこそ」ウィンドウで「次へ」をクリックします。
7. 「インストールする製品の選択」ウィンドウで「Oracle Database 10g Products」を選択して、「次へ」をクリックします。
8. 「ホームの詳細の指定」ウィンドウで次のことを行います。
 - a. 「名前」: 指定された Oracle ホームが Oracle Database の Oracle ホームであることを確認します。(デフォルトの Oracle ホームが表示されます。)
 - b. 「パス」: Oracle ホーム・ファイルをインストールする Oracle Database の Oracle ホームのディレクトリ位置を入力します。(デフォルトの Oracle ホームのディレクトリが表示されます。)

関連項目： 正しい Oracle ホームの検索方法は、15 ページの「Oracle ホーム・ディレクトリの場所の特定」を参照してください。

9. 「次へ」をクリックします。
10. 「製品固有の前提条件のチェック」ウィンドウで、Oracle Universal Installer がシステムをチェックしたときに発生した可能性があるエラーの有無を調べて修正します。
11. 「次へ」をクリックします。
12. 「サマリー」ウィンドウで、インストールされる製品のリストをチェックして、「インストール」をクリックします。
13. インストールが完了したら、「終了」をクリックしてから「はい」をクリックして Oracle Universal Installer を終了します。
14. オプションとして、インストール処理中に作成された一時ファイルを削除する場合は、OraInstalldate_time ディレクトリを削除します。OraInstalldate_time ディレクトリには、約 45MB 分のファイルが保持されています。このディレクトリは、TEMP 環境変数設定により設定された場所に作成されます。

コンピュータを再起動する場合も、OraInstalldate_time ディレクトリは削除されます。

15. Oracle HTTP Server を再起動します。

例：

```
ORACLE_BASE%ORACLE_HOME%opmn%bin%opmnctl restartproc ias-component=HTTP_Server
```

7.3 Oracle Workflow 中間層のインストールのための Oracle Workflow Server の準備

Oracle Workflow Server は、インストールした後、Oracle Workflow 中間層コンポーネントをインストールする前に構成する必要があります。Oracle Workflow の構成には Oracle Workflow コンフィギュレーション・アシスタントを使用します。

Oracle Workflow 中間層コンポーネントのために Oracle Workflow Server を準備するには、次の手順を実行します。

1. Oracle Workflow 用に使用する予定の Oracle Database がアクセス可能で実行中であることを確認します。

Oracle Database が実行中であることを確認するには、Windows の「コントロールパネル」または「管理ツール」メニュー（「スタート」→「プログラム」の下）にある「サービス」ユーティリティを使用できます。Oracle Database の名前の前には OracleService が付いています。該当するサービスの名前を右クリックし、メニューから「開始」を選択します。

2. 「スタート」メニューから「プログラム」を選択し、「Oracle - HOME_NAME」→「Configuration and Migration Tools」→「Workflow Configuration Assistant」を選択します。

3. 「Oracle Workflow コンフィギュレーション・アシスタントへようこそ」ウィンドウで次の情報を入力します。

- 「インストール・オプション」：「サーバーのみ」または「言語の追加」を選択します。

「サーバーのみ」オプションを選択すると、Workflow コンフィギュレーション・アシスタントは Oracle Workflow を Oracle Database 内にインストールします。

注意： Oracle Workflow リリース 2.6.4 にアップグレードするには、既存の Oracle Workflow Server がリリース 2.6.2 以上であることを確認してください。

「言語の追加」インストール・オプションを選択する場合、追加する言語の略称を選択します。言語を追加する前に Oracle Workflow をインストールする必要があります。Oracle Database で使用される言語略称の一覧は、『Oracle Database グローバリゼーション・サポート・ガイド』にあります。

- 「ワークフロー・アカウント」：Oracle Workflow データベース・アカウントに使用する名前を入力するか、デフォルトの名前（通常は owf_mgr）を受け入れます。

このアカウントのデフォルトの表領域は USERS で、一時表領域は TEMP です。表領域は必要に応じて変更できます。

注意： Oracle Workflow の既存のインストールをアップグレードする場合、既存の Oracle Workflow データベース・アカウントの名前とパスワードを入力してください。

- 「ワークフロー・パスワード」：Oracle Workflow アカウントのパスワードを入力します。

- 「SYS パスワード」: システム上の Oracle Database インストールの SYS アカウントに対するパスワードを入力します。パスワードは Oracle Workflow Server のインストールでは必須ですが、言語を追加する場合は必須ではありません。
- 「TNS 接続ディスクリプタ」: TNS 形式で指定したデータベース接続文字列。
(DESCRIPTION = (ADDRESS_LIST = (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP) (HOST = host_name) (PORT = port_number))) (CONNECT_DATA = (SERVICE_NAME = database_service_name)))

接続文字列は tnsnames.ora ファイル内に格納されています。このファイルは、デフォルトでは ORACLE_BASE\ORACLE_HOME\network\admin にあります。接続文字列を単一行形式で簡単に見つけるには、コマンド・プロンプトで **tnsping** コマンドを実行し、その結果をテキスト・ファイルに出力し、結果の接続文字列をコピーして「TNS 接続ディスクリプタ」ボックスに貼り付けます。たとえば、mau という名前のサーバーの接続文字列を取得するには、次のように入力します。

```
c:\> tnsping mau > tns.txt
```

4. Oracle Internet Directory を Oracle Workflow のディレクトリ・リポジトリとして統合する場合は、「LDAP パラメータを入力します」チェックボックスを選択してから「LDAP の値の取得」を選択し、Workflow の「LDAP パラメータ」ウィンドウを表示します。

注意: すでに Oracle Internet Directory の統合が実装された既存の Oracle Workflow インストールをアップグレードしている場合、アップグレード中に Oracle Internet Directory 統合を保持するために Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) の値をここに再入力する必要があります。

接続する LDAP ディレクトリに関する次の LDAP サーバー情報を入力した後、「OK」をクリックします。インストール後、「グローバル・ワークフロー・プリファレンス」Web ページ上で必要に応じてこれらの値を更新できます。

関連項目: 詳細は、『Oracle Workflow 管理者ガイド』の Oracle Workflow の設定に関する項を参照してください。

- 「LDAP ホスト名」: Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリがインストールされているホストを入力します。
- 「LDAP 非 SSL ポート」: ホストが使用するポート番号を入力します。このポートに Secure Sockets Layer (SSL) ポートは使用できません。
- 「LDAP 管理ユーザー名」: LDAP サーバーへの接続に使用されるユーザー名を入力します。このユーザー名は、書込み権限を持ち、LDAP ディレクトリにバインドする必要があります。

例:

```
cn=orcladmin
```

- 「LDAP 管理パスワード」: LDAP ユーザー・アカウントの Oracle Internet Directory パスワードを入力します。LDAP パスワードの値は、表示ではアスタリスクでマスクされ、暗号化された形式で格納されます。

- 「**変更ログ DN**」: 変更ログ・ファイルがある LDAP ノードを入力します。

例:

```
cn=changelog
```

- 「**ユーザー・ベース**」: ユーザー・レコードが含まれている LDAP ノードを入力します。

例:

```
cn=Base, cn=OracleSchemaVersion
```

注意: インストール時に Oracle Internet Directory との統合を設定した後、WF_LDAP API を使用して Oracle Workflow ディレクトリ・サービスを Oracle Internet Directory と同期化する必要があります。詳細は、『Oracle Workflow 管理者ガイド』を参照してください。

5. Oracle Internet Directory と統合しない場合は、「**LDAP パラメータを入力します**」チェックボックスを空のままにします。
6. シードされた Java ベースの通知メーラー・サービス・コンポーネントである Workflow Notification Mailer の構成パラメータを入力するには、「**メーラー・パラメータを入力します**」を選択してから「**メーラーの値の取得**」を選択し、Workflow の「メーラー・パラメータ」ウィンドウを表示します。次のパラメータの値を入力してから、「**OK**」をクリックします。
 - 「**電子メール・アカウントのインバウンド**」:
 - 「**サーバー名**」: 受信用 IMAP メール・サーバーの名前を入力します。
 - 「**ユーザー名**」: 通知メーラーが電子メール・メッセージを受信するメール・アカウントのユーザー名を入力します。
 - 「**パスワード**」: 「**ユーザー名**」パラメータに指定されたメール・アカウントのパスワードを入力します。
 - 「**電子メール・アカウントのアウトバウンド**」: 送信用 SMTP メール・サーバーの名前を入力します。
 - 「**電子メール処理**」:
 - 「**処理済フォルダ**」: 通知メーラーが正常に処理された通知メッセージを入れるための、受信用電子メール・アカウント内のメール・フォルダの名前を入力します。
 - 「**削除フォルダ**」: 通知メーラーが通知メッセージとして認識されない受信メッセージを入れるための、受信用電子メール・アカウント内のメール・フォルダの名前を入力します。

- 「メッセージ生成」:

- 「HTML エージェント」: HTML エージェントは、Oracle HTTP Server 内で Oracle Workflow 用に定義された Web エージェントを示すベース URL です。通知メーラーは、HTML 添付の電子メール通知をサポートするためにこの URL を使用します。このパラメータは、デフォルトで次のプレースホルダ値に設定されます。

`http://localhost.com/pls/wf`

すでに Oracle HTTP Server がインストールされている場合、`localhost.com` を、Web リスナーがリクエストを受け入れるサーバーおよび TCP/IP ポート番号と置き換えます。インストールされていない場合、このパラメータはプレースホルダ値の設定のままにします。この場合、Oracle HTTP Server および Oracle Workflow のインストールを完了した後、Oracle Workflow Manager の通知メーラー構成ウィザードでこのパラメータを設定する必要があります。

関連項目: 『Oracle Workflow 管理者ガイド』の Oracle Workflow の設定に関する項

- 「返信先アドレス」: 受信メッセージを受け取る電子メール・アカウントのアドレスを入力します。通知応答の送信はこのアドレスに対して行います。

最初のインストールの後、必要に応じて Oracle Workflow Manager で通知メーラーの構成値を更新できます。また、「グローバル・ワークフロー・プリファレンス」Web ページで Oracle Workflow の HTML エージェントの値を更新することもできます。

関連項目: 詳細は、『Oracle Workflow 管理者ガイド』の Oracle Workflow の設定に関する項および Oracle Workflow Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。

7. Oracle Workflow のデータベース・アカウントに割り当てられた表領域を変更するには、「表領域の変更」チェックボックスを選択し、値リストから既存の表領域を選択します。
8. 「送信」を選択して構成を開始するか、「終了」を選択して構成を実行せずに Oracle Workflow コンフィギュレーション・アシスタントを終了します。
9. 構成が完了すると、確認ウィンドウが表示されます。「OK」をクリックします。

構成の状況は、`ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥wf¥install¥workflow.log` ファイルを調べることでチェックできます。

8 Oracle Database 10g Companion Products のインストール

Oracle Database 10g Companion Products は新しい Oracle ホームにインストールする必要があります。

Oracle Database 10g Companion CD 製品をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 最初に「Oracle Database 10g Products」インストール・タイプから Oracle Workflow Server をインストールし、Oracle Workflow Configuration Assistant を実行して Oracle Workflow を構成してあることを確認します。

2. Administrators グループのメンバーとして、Oracle コンポーネントをインストールするコンピュータにログオンします。

プライマリ・ドメイン・コントローラ (PDC) またはバックアップ・ドメイン・コントローラ (BDC) にインストールする場合は、Domain Administrator グループのメンバーとしてログインします。

3. ORACLE_HOME 環境変数が存在する場合は、削除します。環境変数の削除方法の詳細は、Microsoft のオンライン・ヘルプを参照してください。

注意： ORACLE_HOME 環境変数は、自動的にレジストリに設定されます。この変数を手動で設定すると、インストールができなくなります。

4. Oracle Database インストール・メディアを挿入し、companion ディレクトリにナビゲートします。または、インストール・ファイルをダウンロードまたはコピーしたディレクトリにナビゲートします。

Oracle Database のインストールには、サポートされているすべての Windows プラットフォーム上で同一のインストール・メディアを使用します。

5. setup.exe をダブルクリックし、Oracle Universal Installer を開始します。

6. 「ようこそ」ウィンドウで「次へ」をクリックします。

7. 「インストールする製品の選択」ウィンドウで「Oracle Database 10g Companion Products」を選択して、「次へ」をクリックします。

8. 「ホームの詳細の指定」ウィンドウで次のことを行います。

- a. 「名前」: Oracle ホームの名前を入力します。Oracle Database Companion Products を新しい Oracle ホームにインストールするか、Oracle Workflow 中間層のみを既存の Oracle HTTP Server の Oracle ホームにインストールできます。Oracle Database Companion Products を既存の Oracle Database のホームにインストールすることはできません。

- b. 「パス」: Oracle ホームのディレクトリ位置を入力します。ディレクトリが存在しない場合、Oracle Universal Installer がそのディレクトリを作成します。

関連項目： 正しい Oracle ホームの検索方法は、15 ページの「[Oracle ホーム・ディレクトリの場所の特定](#)」を参照してください。

9. 「次へ」をクリックします。

10. 「使用可能な製品コンポーネント」 ウィンドウで次の製品の中から選択して、「次へ」をクリックします。

- **Apache Standalone:** (このオプションにより Oracle HTTP Server がインストールされます。)
- **Oracle Workflow 中間層**

注意: Oracle Workflow 中間層を新しい Oracle ホームにインストールする場合、Oracle HTTP Server を選択する必要があります。

11. 「製品固有の前提条件のチェック」 ウィンドウで、Oracle Universal Installer がシステムをチェックしたときに発生した可能性があるエラーの有無を調べて修正します。

Oracle Workflow 中間層のみを既存の Oracle HTTP Server のホームにインストールする場合、手動で前提条件をチェックして、選択された Oracle ホームの確認が必要な場合があります。

12. 「次へ」をクリックします。

13. 「Oracle Workflow 中間層の構成」 ウィンドウで、Oracle Workflow 中間層に必要な構成設定を指定します。

Oracle Workflow 中間層を構成するには、mod_plsql 構成ファイル内にデータベース・アクセス記述子 (DAD) を作成し、Oracle HTTP Server 構成ファイル内にディレクトリの別名を作成する必要があります。Oracle Universal Installer は、このステップに指定された情報を使用してこれらのタスクを実行します。

次の情報を入力します。

■ **「ワークフロー・スキーマ」**

Oracle Workflow Server のデータベース・オブジェクトをデータベースにインストールしたときに使用したユーザー名 (スキーマ名) を指定します。デフォルトのユーザー名は owf_mgr です。

■ **「DB ホスト名」**

データベースがインストールされているシステムのホスト名を指定します。ホスト名がローカル・ホストの場合、コンピュータの名前 (たとえば、myserver.us.mycompany.com) を入力します。localhost ではありません。

■ **「ポート番号」**

データベース・システム上の Oracle Net Listener の TCP/IP ポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 1521 です。この情報は、Oracle Database の tnsnames.ora ファイルにあります。デフォルトのインストールでは、このファイルは ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥network¥admin にあります。

■ **「Oracle SID」**

Oracle Workflow Server のデータベース・オブジェクトをインストールしたデータベースのシステム識別子 (SID) を指定します。

14. 「Oracle Workflow 中間層の構成」 ウィンドウで、前の手順で作成した Oracle Workflow スキーマのパスワードを入力して、「次へ」をクリックします。

15. Oracle Apache インストールウィンドウで、Oracle Workflow 中間層の構成に必要な次の情報を入力して、「次へ」をクリックします。
 - 「パスワードを入力」

前のウィンドウで指定した Workflow ユーザー（通常は OWF_MGR）のパスワードを指定します。このパスワードは、mod_plsql データベース・アクセス記述子に使用されます。
 - 「パスワードの確認」

パスワードを正しく指定したことを確認するために、再度入力します。
16. 「サマリー」ウィンドウで、インストールされる製品のリストをチェックして、「インストール」をクリックします。
17. インストールの終了ウィンドウで、Oracle HTTP Server により使用される URL を書き留めます。

注意： これらの URL は、ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥Apache¥Apache¥setupinfo.txt ファイルにもリストされています。

18. 「終了」をクリックしてから「はい」をクリックして Oracle Universal Installer を終了します。
19. オプションとして、インストール処理中に作成された一時ファイルを削除する場合は、OraInstalldate_time ディレクトリを削除します。OraInstalldate_time ディレクトリには、約 45MB 分のファイルが保持されています。このディレクトリは、TEMP 環境変数設定により設定された場所に作成されます。

コンピュータを再起動する場合も、OraInstalldate_time ディレクトリは削除されます。
20. Oracle HTTP Server を再起動します。

例：

```
ORACLE_BASE¥ORACLE_HOME¥opmn¥bin¥opmnctl restartproc ias-component=HTTP_Server
```

9 インストール後の作業

Oracle Database Companion CD 製品を正常にインストールした後は、『Oracle Database Companion CD インストレーション・ガイド』の第 5 章「Oracle Database Companion CD 製品の開始」を参照してください。

10 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。アクセシビリティの標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

一部のスクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし一部のスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

11 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

オラクル社カスタマ・サポート・センター

オラクル製品サポートの購入方法、およびオラクル社カスタマ・サポート・センターへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

Oracle Database Companion CD インストール・ガイド, 10g リリース 2 (10.2) for Microsoft Windows (32-bit)

部品番号 : B25258-01

原本名 : Oracle Database Companion CD Quick Installation Guide, 10g Release 2 (10.2) for Windows (32-Bit)

原本部品番号 : B14322-01

Copyright © 2005 Oracle. All rights reserved.

このプログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段 (電子的または機械的)、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software—Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、および Retek は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへのリンク、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行 (製品またはサービスの提供、保証義務を含む) に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

